

# 日本鐵鋼協會記事

理事會 (昭和 10 年度第 2 回) 昭和 10 年 4 月 9 日(火)

午後 5 時開會。

出席者 水谷叔彦君 渡邊三郎君 松下長久君 今泉嘉一郎君  
俵國一君 河村曉君

協議事項 1. 日本鐵鋼試料新規品頒布に關する件 (價格決定)

- 1. 本年秋季第 15 回講演大會開催地選定並に計畫に關する件
- 2. 本年秋季第 12 回研究部會開催に關する件 (問題選定)
- 4. 前會長河村博士より資金寄贈申込み其の取扱に關する件
- 5. 入退會者及會員異動に關する件 (自 3 月 7 日至 4 月 9 日)
  - イ、入會申込者 正會員 17 名 准會員 31 名 計 48 名(承認)
  - ロ、會員別變更 准會員 宗田太郎君 正會員に轉更申出あり

(承認)

- ハ、名義變更 維持會員 川崎車輛株式會社は川崎造船所製鋼工場と改稱せり。
- ニ、退會申出 准會員 戸田重治 (承認)
- ホ、維持會員 三菱製鐵株式會社は解散に付き退會 (承認)
- ヘ、死亡者 正會員 2 名 (氏名別項)

報告事項

- 1. 日本工學會評議員會議事報告
- 2. 追悼の故製鐵功勞者御遺族より謝禮狀
- 3. 記念號原稿到着狀況

以上審議を了し午後 7 時 30 分散會せり。

## 新 入 會 者 氏 名

居 所 又 は 宛 名 先	勤 務 先 又 は 職 業	會 員 別	入 會 者 氏 名	紹 介 者
横濱市神奈川區西平沼町古川電氣工業株式會社	古河電氣工業會社參與	正會員	中山 良 雄君	次郎次郎三郎次郎助郎之郎次貞次吉郎次夫郎熊郎鼎郎人人曉郎吉吉郎 宗 太 宗 太 宗 三太之太弘 太 太 宗 恒 宗 賢 太 太 宗 幹 太 已 太 達 橋 橋 武 橋 敏 橋 良 橋 橋 橋 田 田 松 上 松 方 松 田 松 本 松 田 川 田 松 松 田 山 松 村 松 山 村 村 藤 村 藤 行 村 山 村 山 村 村 藤 寒 藤 平 村 村 藤 向 村 植 村 諸 森 同 同 河 村 木 吉 村 村 松 橋 太 郎 松 下 田 松 橋 太 郎 白 倉 錠 次 郎 鹽 澤 正 一 内 野 久 雄 田 中 清 治 村 松 橋 太 郎 行 方 敏 三 郎 山 岡 武 松 下 長 久
大連市山城町二番地	文學士 鐵鋼商	〃	畑 中 行 三君	
仙臺市米ヶ袋廣町九	工學士 東北帝大金屬材料研究所	〃	渡 邊 直 行君	
麴町區丸ノ内二ノ二〇郵船ビル七階	獨逸レンズ商	〃	カールツァイス株式會社	
福岡市箱屋町	鐵 鋼 商	〃	高 口 鋼 商 店君	
宇部市上町六丁目	宇部窒素工業會社技師	〃	鳥 羽 雄 吉君	
兵庫縣飾磨町島字一文三〇〇七	山陽製鋼會社技師	〃	齋 藤 新 一君	
大阪市東區正今橋三丁目		〃	三 和 銀 行 調 査 課	
兵庫縣武庫郡鳴尾村西宮一五六五	昭和電極會社專務取締役	〃	林 範 二君	
麴町區丸ノ内三ノ八クルップ會社内	クルップ會社	〃	吉 川 八 十 八君	
横濱市鶴見區末廣町二ノ二		〃	日 本 鑄 造 株 式 會 社	
長野縣南佐久郡小海村		〃	日 本 電 氣 工 業 會 社 小 海 工 場	
横濱市鶴見區末廣町一ノ一		〃	鶴 見 窯 業 株 式 會 社	
大森區山王二ノ一八五四(大森三九八七)	日本鋼管會社條鋼部技師	〃	森 正 君	
川崎市京町一ノ五二	日本鋼管會社條鋼部技師	〃	砂 澤 彌 平君	
淀橋區戸塚町一ノ三七六	工學士 三菱鑛業會社研究所	〃	堀 部 英君	
大阪市西區道頓堀通四ノ一〇	住友伸鋼管會社製品販賣	〃	町 野 商 店君	
杉並區高圓寺五ノ八五三	自動車工業株式會社	准會員	仁 井 達 夫君	
尼ヶ崎市東向島西ノ町住友伸鋼管會社鋼材工場		〃	土 手 久 一君	
長岡市學校町一丁目丸山松太郎方	長岡高工、機械科學生	〃	久 米 正 幸君	
四谷區番衆町三四	早大、理工、採治學生	〃	川 合 幸 晴君	
川崎市渡田日本鋼管會社高爐係		〃	川 池 添 豐 一 郎君	
本郷區臺町一四(小石川四八〇一)	東京帝大冶金學生	〃	川 池 添 豐 一 郎君	
長野縣福島町大同電氣製鋼所福島工場		〃	雀 部 高 雄君	
福岡市下營園櫻ヶ峰二六〇(福岡三九四二)	鐵 鋼 商	〃	永 田 元 吉君	
八幡市八幡製鐵所鼓炭部第二鼓炭課	宿 老	〃	高 口 清君	
川崎市大島七二三	日本鋼管會社	〃	白 石 竹 松君	
		〃	大 石 儀 作君	

横濱市鶴見區豐岡町二二〇小馬方	〃	准會員	川口良夫君	松下長久
横濱市鶴見區東寺尾町一五七一飯塚方	〃	〃	山田梅一君	〃
品川區大井原町五三七七小西方	〃	〃	山本文司君	〃
蒲田區女塚町一九五原方	〃	〃	圖司章君	〃
蒲田區女塚町五一三	〃	〃	中野宏君	〃
横濱市鶴見區矢向町七二一	〃	〃	龜山哲雄君	〃
新潟縣中頸城郡名香山村妙高溫泉加島屋內	工學士	中央電氣工業會社	伊藤英一君	村松橋太郎
神戸市葦合區脇濱町川崎造船所製鋁工場	〃	〃	原田壽君	小田切延壽
本郷區追分町三一光明館(小石川三一二九)	日本特殊鋼管會社	〃	深堀茂君	梅津七藏
奉天大西邊門外衛路南九八	工學士	滿洲國奉天鐵業監督署	高橋亨君	田中清治
室蘭市輪西大澤社宅	日本製鐵會社	輪西製鐵所	川原有美君	村松橋太郎
岡山縣兒玉郡玉三井物產造船部	工學士	〃	熊木九郎君	橋本三彌
品川區大井坂下町二七三〇	工學士	新潟鐵工所	秋山二郎君	松浦春吉
栃木縣日光町清瀧日光電氣精銅所研究室	工學士	古河電氣工業會社	川村知君	西村啓造
大森區入新井三ノ六七	工學士	日本特殊鋼會社	矢野千春君	渡邊三郎
大森區大森一ノ六四七五日本特殊鋼會社	工學士	〃	安藤公平君	〃
前同	日本特殊鋼會社	〃	亙理直毅君	永澤清
〃	〃	〃	野村正君	村上武次郎
大阪市東區大阪工廠鐵材製造所	工學士	日本特殊鋼合資會社	小出一太郎君	田村宣武
淀橋區十二社三〇二(高輪二六〇八)	工學士	川崎造船所製鋼工場	塚原秋廣君	川上義弘
神戸市葦合區上筒井通五ノ六〇	工學士	〃	近藤順一郎君	藤井寛

死 亡

正會員 鮫島平宗君 昭和十年三月二十六日 吉田正心君 昭和十年三月七日

以上兩氏の御逝去は洵に痛惜の至りなり茲に謹んで弔意を表す

# 日本鐵鋼協會第二十回通常總會、第十四回講演大會

## 本會創立第二十周年記念會、第十一回研究部會開會概況報告

### 概 況

本會は本年を以て創立第二十周年を迎へたるを以て豫てより計畫し既に發表したる次第書に依り東京に於て4月2日より3日間に亘り催さるゝ常例の本會第十四回(春季)講演大會、本會第二十回通常總會開會と同時に創立第二十周年記念會を開き第十周年記念大會に鑑み祝賀式製鐵功勞者表彰並に故製鐵功勞者追悼會を舉行せり。出席受付會員總數473名にして未曾有の多數を算し、大會の行事は始終順調に進行し極めて盛況を呈したり。是全く時勢の向ふ所と周囲の同情並に會員諸彦の熱情の然らしむるに外ならずして本會の最も幸慶とする所なり。其概況日程を逐て記せば次の如し。

### 第1日 4月2日 火曜 講演會、通常總會、記念會

會場麴町區丸の内3丁目4番地帝國鐵道協會々館大講堂。

朝來曇天、開會の定刻午前9時に先ち續々會員の參集あり。會員へは出席者名簿、日本鐵鋼協會要録、昭和9年度會務會計報告創立第20周年記念會次第書、第5回服部賞金受領者推薦理由書、第4回香村賞牌受領者推薦理由書、第1回俵賞金受領者選定書、工場見學案内圖等を配布せり。來賓へは日本鐵鋼協會要録及び創立第二十周年記念會次第を呈せり。

### 講演午前の部

定刻午前9時振鈴にて一同着席を待ちて理事水谷會長代理開會の辭あり、直に講演に移る、俵博士司會して入江氏、澤村博士の講演述べ。次に高博士司會し海野博士、島村工學士の講演にて午前の講演了る。

### 日本鐵鋼協會第二十回通常總會(會場前同)

午前11時10分振鈴一同の着席を待ちて水谷理事開會を宣し一場の挨拶に次で野田會長の開會の辭を述べ議長席に移り議事を行ひ續いて規定の表彰式を擧ぐ其都度満場拍手を以て賛意を表し終始一貫順調に進行せり。

### 晝食(鐵道協會々館二階食堂)

一同設けの食卓に着き舊交を温め新知を求め談笑裡に食事時間を過せり。

### 講演午後の部(午後1時)

講演會は再び開かれ水谷博士司會し午後1時より同2時25分に至る間に宗田工學士、山岡工學士、村上博士(實物幻燈)の講演ありて本日の講演を終る。

### 創立第二十周年記念會(會場同上)

午後2時30分より本會創立第20周年記念祝賀式を行ふ。俵委員長の式辭あり次で製鐵功勞者へ表彰狀並に製鐵功勞賞牌を贈呈す其都度全堂に拍手湧き満腔の祝意を表す。次で町田商工大臣(代理)及び眞野工學會理事長の祝辭ありて午後3時閉會となる。本式參列者300餘名にして最も盛況を極む。

### 故製鐵功勞者並に物故會員追悼會

4月2日午後4時より築地本願寺に於て故製鐵功勞者並に物故會員の追悼會を執行す。先づ來會の參拜者は各設けの休憩室にて定刻の到るを待つ。祭壇には故製鐵功勞者なる故淺野氏、故大石博士、故大倉男爵、故小花博士、故片岡氏、故住友男爵、故團男爵、故種

子田氏、故中村男爵、故原田博士、故渡邊(芳太郎)博士等十一氏並に物故會員の靈牌を安置し靈前に諸種の供物と本會寄贈の生花大小二對、花環一對を配置し儀裝整ふ。定刻一同本堂に集合着席、午後4時20分劉曉たる伶樂裡に本願寺輪番僧始とし隨僧15名の莊嚴なる讀經始まり和讃稱名中遺族の焼香を了し再び伶樂裡に僧侶退くや俵委員長會長代理として、次で眞野工學會理事長、町田商工大臣(代讀)各追悼文朗讀ありて一般參列者の焼香あり、儀禮嚴肅敬虔に満ち故人を追憶すること切なり、午後5時法會を終了す。當日の出席者は故功勞者遺族大倉喜七郎男爵、團伊能男爵、住友男爵代理土井正治氏、淺野義夫氏、小花一郎氏外3名、種子田秀穂氏、原田精氏外2名、渡邊芳一氏外4名等にして、來賓及會員120餘名、遺族者へは日本鐵鋼協會要録並日本鐵鋼協會第二十周年記念會次第書を贈呈せり。

### 晚餐會(4月2日午後6時)

帝國鐵道協會々館二階食堂に於て午後6時開會す。今回は特に招待状を商工大臣、工學會理事長、名譽會員、維持會員、選彰者、追悼者遺族者、講演者、見學工場主等へ發し來會者次の如し。

先づ主卓には俵委員長並に來賓眞野工學會理事長を中心とし本日表彰されたる製鐵功勞者河村博士、景山工學士、水谷博士、渡邊博士、故製鐵功勞者遺族者小花一郎君、住友男爵代理土井君、團男爵種子田秀穂君、原田精君、渡邊芳一君(代)、淺野義夫君、服部賞受領者井門文三君、井上禮治君、佐藤政一君、佐藤知雄君、武林誠一君、中島道文君、宮原信治君、目黒斌君、香村賞牌受領者戸村理順君、俵賞受領者菊田多利男君、名譽會員今泉嘉一郎君、本多光太郎君、松方幸次郎君、向井哲吉君、白石元治郎君、塩田泰介君、維持會員代表、日本製鋼松田義一君、戸畑鑄物代表村上正輔君、淺野造船代表正本壽郎君、中山製鋼代表、見學工場代表、東京製綱子安千代松君以上にして外出席會員評議員門野重九郎君、川上義弘君、金子恭輔君、朝倉希一君、岩瀬徳藏君、村上武次郎君、黒田泰造君、桂弁三君、外講演者、會員等合計98名にして和氣霽々満場に漲る。デザートコースに入り俵委員長の一場の挨拶に引續き例に依り數氏の卓上演説あり最も盛況裡に午後7時散會せり。

### 第2日 4月3日(祭日) 講演會(會場前日同)

前日に引續き午前9時講演會を開く、第1部會場を二階の講堂とし、河村博士司會して、深堀工學士、的場工學士、藤原 D. Sc. 等の講演あり、第2部會場を三階講堂とし齋藤博士司會して名黒工學士、田邊博士、高橋理學士等の講演あり。午前10時35分よりは三階講堂のみとし村上博士、松下博士、渡邊博士、鹽田博士等相續いて司會し、錦織工學士(幻燈)、原理學士、伊丹博士、百合氏、内藤理學士、藤井博士、田中工學士、多賀谷工學士(活動寫眞)佐藤知雄博士、佐野理學士、矢島工學士等の有益なる講演あり。水谷會長代理講演終了の辭ありたるは午後5時20分なりき。

### 第3日 4月4日(木) 工場見學

中山薄鐵鋼工場 朝來薄曇でも雨の催しはない。午前9時前より當日見學の初程なる横濱市鶴見區安善町、東京中山薄鐵鋼工場へと會員は續々來つて同工場の休憩所に迎へられた。會員の參集するに

従ひ 20~30 名づゝを一班とし同所の係員に案内せられ各班相順ひ 200 名の會員は熱爐作業及び壓延作業の製造工程を順次見學した。

當工場は中山半氏の僑人經營にして昭和 8 年 1 月操業を開始し漸次設備を増し現在壓延機 4 臺を運轉し年産 3 萬噸の薄鋼軋を出すといふ。目下兵庫縣尼ヶ崎に分工場を新設中にて今秋作業開始の豫定なりといふ。同所に於て茶菓を饗せられ懇切なる歡待を受けたり、見學は午前 9 時より同 10 時に至る間に行はれ、此所を了へ次の見學工場に向つた。

安善通譯より鶴見臨港鐵道に乗り扇町驛に下車し徒歩約 7 丁にて川崎市扇町 10 番地なる。

**昭和鋼管株式會社** に着したるもの約 270 名午前 10 時 30 分より同 11 時 30 分に至る間に工場を見學した、突合鍛接鋼管、管接手、プッシュベンチ熱間仕上、冷間引拔及び製品仕上等の作業を見學す、就中當社の特徴として誇る所はプッシュベンチ装置であつて、能く高炭素鋼及び特殊鋼を以て鋼管製造の可能なることである製品の種別には突合鍛接鋼管熱間仕上引拔繼目無鋼管、冷間仕上引拔繼目無鋼管、重合鍛接鋼管等がある。當社は資本金 600 萬圓、昭和 8 年 2 月の設立、同年 9 月より營業を開始したるものであつて年産額 10 萬噸の豫定なりといふ。社長濹澤正雄氏銳意事に當る。見學を終るや豫てより特設せられたる天幕休憩所に於て手厚き晝食の饗應を享けた。歡待を盡され會員一同満足す。暫くあつて濹澤社長の挨拶あり、「鐵の多量を需要し且つ多量を産出する邦は富み且つ強いといふ泰西先覺者の至言に則り年來抱負の一端を茲に發顯したるものは當社の新事業なり、大方諸彦の諒解と援助を希ふ」との主旨であつた。渡邊理事之に應じ其の好意を感謝する旨の挨拶をなした。

#### 昭和鋼管株式會社社長濹澤正雄氏挨拶

一寸御挨拶を申し上げます。

本日は斯くも多數、斯界の權威者が貴重なる日程の半日を割愛されて臨席を忝けなく致しました事は、私始め當社一同の欣幸、且感謝に堪へぬ所であります。

此の工場は未だ漸く昨年十月に完成したばかりで、御覽の通りほんの赤ん坊でございます。誠によちよちしたものでございますので皆様の御庇護と御鞭撻によりまして、何とか一人前に仕上げ度いものと、親心に希ふ次第であります。

さて、聊か手前味噌の感はございますが、此の機會に私が日頃製鐵事業に對して、抱懷致して居ります心持の一端を、申述べさして戴き度いと思ひます。

實は、私が製鐵事業に志しましたのは、極く幼少の頃からであると申し上げたいので。御座います古い話ですが、御維新の直前即ち西曆 1867 年、私の父濹澤榮一が民部少輔徳川昭武公に従つて歐洲に派遣せられ、ベルギー國王レオポルド三世陛下に拜謁した時の事です。その時陛下の言はれますに「製鐵事業の消長は國家富強の尺度である。鐵を多く産する國は富み、鐵を多く使ふ國は強い。若し貴國が富強を欲するならば先づ大に鐵を使はねばならぬ而してその鐵を使ふ場合には宜しく我がベルギー國の鐵を使用すべきであることを貴下におすゝめする」と、國王が仰せられたさうですが、當時武士的氣質のさかんな父は前段の製鐵國策に大なる感銘を得たと同時に苟も一國の帝王がベルギー國の鐵の宣傳までされるのに對し奇異の感を抱いたと能く口癖のやうに聞かされたものです、私も製鐵事業こそは國家隆盛の爲めには、如何に重要な役目を持つて居るものであるかと云ふ事をその時分から強く感じさせられて居つたの

で御座います。

其後私は大正 4 年に父に伴はれて渡米致しました際、父は大北鐵道の社長ジエームス、ヒル氏に面談致しました。其時氏は米國に於ける鐵鋼事業の盛んな狀況を説明した後で、父に向つて

「貴下は貴國のあらゆる事業の生みの親であり、育ての母であると承知して居るが、産業の基礎事業たる製鐵のみは一切を國家に任せて顧みないのは如何なる譯か」と訊ねられました。父も之には返す言葉がなく歸朝後間もなく創設しましたのが東洋製鐵なのであります。ところが事志に反して、東洋製鐵は遂に八幡製鐵所の委任管理を受ける様な運命になりました。

晩年父は鐵の話が出る度にこの二つの昔語りをしては敗軍の將は兵を語らずだと申して居りました。私はこれらの事柄が原因となつて製鐵事業の國家的完成こそは、私が畢生の業務たるべきであるとの信念を有つやうになつたのであります。以來この信念の實現のために、私は鐵鋼の輸入事業に、或は製鋼事業に、又は鐵鋼を使用する事業に携りまして、その間幾多の失敗と辛酸とを経験して來たので御座いますが、製鐵事業の完成こそは、どうしても成し遂げねばならない父の遺業たるの信念に燃えて居るので、一意身命を賭して今も働きつづけて居るのであります。而かも私一個の力は言ふに足らざるものであることは申す迄もなく、この志を遂げるには如何にしても皆様の御親切なる御指導と、御後援とを後楯に致さねばならないことを痛感致して居るものであります。

さて、私は、私が先頃迄主宰して居りました富士製鋼會社が製鐵合同の際これに参加致しました關係で、一時所謂ルンペンになりました。ところが、色々周圍から話がありまして、とうとう川崎造船所の平生さんや、お隣りに工場を持つて居られます昭和肥料の森森昶さんの三人共同で、製鐵事業を始めることになり、出来上つたのがこの工場なのであります。ところが、この工場が日本鋼管の鼻先の對岸へ持つて來て建てたものですから、濹澤は随分皮肉なことをする奴だ等と言はれた事もありましたが私にはそんな狭い量見は未塵もあつたわけではありません。年産額僅か 5 萬噸や 10 萬噸の工場をお互に相争はせ様とするやうな小さな考へは持ち合はせないのでございます。事實我が國に此位の工場が、4 つや 5 つ軒を並べて建つて居ても不思議はないのでありまして、お互に研磨し相援けて以て吾國の製鐵業を益々殷盛にすることこそ、私共の責任ではないかと信ずるものであります。この爲めには、或は二三の會社の間に各種の協定も行はれませうし、或は合同も行はれるでせうこれらについては兎も角詮議たてする必要はなく、要は我國の鐵鋼事業を發展完成せしめて、今日吾國が世界三大強國の一つであるにも拘はらず、鐵鋼事業に關する限り弱小國たるの現状から、速かに脱却すべく邁進すれば可なりと信じるものであります。

それから、ついでにこゝには多數鐵鋼を使用消費する方もおいでありますから、私が商工會議所や鐵鋼協會等に籍を置きまして、或は鐵關稅引下げ反對等の運動を致しました事について色々な見方をされる様でありますから一言申添へて置き度いと存じます。

私が今日の關稅引下げに反對致しました事は、申す迄もなく高い鐵を賣つて需要家を苦しめやうといふ算段があつての事ではありません。皆様の中には碁をおやりになる方が御座いませうが、名人本因坊と對局する時には、誰だつて對等に打てるものではないのでありまして、8 日なり井目なりを置いて、始めて碁になるのであります。吾國は遺憾乍ら、世界の先進鐵鋼業國に比しては、未だ此の所謂置き碁たるの狀態にあるので御座います、残念乍ら、これは世界

列國に伍するに到る迄には、どうしても通らねばならない手なので、初めから置き碁を無くしては、戦は負けにきまつて居るので、戦に勝つためには、兎に角置き碁の定石をとつて、5目から4目、4目から3目へと漸進主義の努力を續けて行くより仕方がないのであります。思へば軍備を以てしては世界の一二を争ふ吾國も、製鐵事業では僅に年産330萬噸の生産しかない、即未だ世界の總産額の5%にも足らぬ上に輸出40萬噸に對し輸入が37.8萬噸もある有様ですから、これでは何う見ても、風鈴付きの置碁なので御座います。然しいつまでも風鈴付きの置碁の状態に満足しては居られませんか、兎も角風鈴付きの内に、どんどん手をあげて置かねばならぬと信じましたので、關稅引下げも或程度に止むべしと、力説した譯なのであります。

終りに、今日は鐵鋼界の鏘々たる皆様方が、お忙しい中を斯くも多數當工場に御來臨下さいましたことを衷心から感謝致しますと共に土地不便なるため、甚だ粗末なる御接待を申し上げます事のお許しを一同と共にお願い致す次第で御座います。(拍手起る)

#### 鐵鋼協會理事渡邊三郎氏挨拶

今日は特に我々多數會員の爲めに嶄新なる設備を有せらるゝ此御工場を開放せられまして、よく見學するを得、且つ又斯の如き御鄭重なる御款待に預り、又只今は社長濫澤氏よりこゝの様な工場内ではなくては聞き得ざる製鐵業に關する御高説を拜聽し大いに御鞭撻を受くることを得ましたことは誠に有難く一同に代り厚く御禮申し上げます。(拍手起る)

**東京製綱株式會社** 見學。順路は扇町驛より鶴見臨港鐵道に乗り鶴見驛に至り、省線にて川崎驛に達し之より徒歩約15分間にて本工場に着したるもの約200名午後1時20分より、同2時30分まで同所を見學す。休憩室には鋼索、麻綱の製造工程製品の説明圖表等を掲げ一見概要を知るに便せられた。暫くあつて常務取締役戸村理順氏の挨拶あり。當社は創立50年の歴史を有し製綱事業開始以來艱行路を亡り幾多の研鑽を経て今日の機運を見るに至りたる沿革を語られた、其の資本金7萬圓に起り現在に於ては1,050萬圓に膨大し規模設備共に擴充せられ、只管製品の改良に力を盡し、特許權を有すること數十種に上る。年産鋼索2萬5,000噸、麻綱1萬2,000噸に及び今日に於ては輸入外品を驅逐し、更に進んで海外に輸出の好勢に轉じたといふ。水谷理事謝辭を述べらる。而して會員一同は清涼飲料茶菓の饗應款待を享けた。

次で2,30名宛を1班とし案内係に導かれ工場内を順覽した。先づ鋼索工場に於ては焼入、洗線、製線、鍍工、材料試験、心細燃合、製綱、鋼索試験等の作業を見學したる後麻綱工場を見學したつた。

#### 常務取締役戸村理順氏挨拶

我日本に於ける鐵鋼界最高權威者の團體たる日本鐵鋼協會の第二十回總會に當り本日弊社三工場の一なる當工場を御覽頂く事は無上の光榮として弊社並に従業者一同の感謝措く能はざる處であります殊に近く一昨年皆様に御出頂きました當所と致しましては今日は格別の親みを以て御迎申上る次第であります但其間著敷き進歩の跡もなく舊態其儘を御覽に入れます事は慚愧至極であり又皆様の御厚意に背くにも當り恐縮に堪へない次第であります。

當工場の麻綱部、鋼索部全體を御覽頂くには最短コースを取りましても2時間を要するのでありますから其半分たる1時間では到底餘裕がなく隨つて我國のロープの歴史とか又弊社の經歷杯御聞に達する時間がありませんから夫れは御手許へ差出して置きました印刷

物へ譲りて省略し直に工場へ御案内申上る事に致し御質問には現場にて掛員より御答申上る事に致し度いと存じます。

但し此機會に於て今日の御來光に對する御禮の外にもう一言御禮を附加へる事を御許し願度いのであります、夫れは一昨日の晚餐會で御招待を蒙りました席上にて一寸申し上げました事をレヒートするのでありますから既に御聞になりました御方は御迷惑と存じます御辛抱を願ひます。實は我鐵鋼協會から此度光輝ある香村賞牌を私に授與せられた事に付て有りりますが其理由を承りまするに私に取りては過賞敢て當らず寧ろ慚愧に堪へざるものがありますので一度は御辭退申上様と存じた位であります夫れが當會社の過去の努力に對し賜はつたもので有るとすれば會社も本望であり光榮之に如くものありませぬから御辭退すべきで無いと考へ直し翻つて難有頂戴する事に致し謹んで御請致しました次第であります。

會社も創立48年に相成其内38年はワイヤロープの製作に努力し來つたのであります何分日本に於て初めての事業でありましたので當初は失敗々々又失敗でありましたが其失敗毎に奮起して研究を進め遂に今日に至りましたのでありまして申せば弊社のワイヤロープ38年間の歴史は失敗の歴史と申上て差支ないであります。私は此苦しき經驗から5年や10年の日子では以てワイヤロープの製作を論ずる資格なしと斷言する事が出来ると自ら信じて居る次第であります。今日は弊社のワイヤロープも内地は勿論東洋、南洋、米國迄も Made in Japan 否 Made in Tokyo Japan のレッテルをぶら下て進出するに至り此度名譽の賞牌を頂く迄に立至つたのであります。

乍併此間忘れてなら無い事は其背後に偉大なる御指導者の有つた事であります。大正五年と記憶しますが今日は故人になりました弊社の技師長工學士村井幸三並に當時の技師今日の祕書である野村卓三兩人からロープの品質を向上せしむるには金屬顯微鏡に依り組織を研究する事が肝要であるとの進言を受け當時非常に御多忙で在せられました依先生に無理やり御願申上げ先生の御熱心なる御指導に依り大に得る所あり遂に先進國たる歐米の製品に劣らざる優良品を製作し得る様になりましたので有ります。嘗ては日本國中到る處でワイヤロープの如き大切なるもの即ち命の綱とも云ふべき所に和製など使へるものかと罵聲をアビせられ而もペソをかいてスゴゴ歸りました所謂私のペソ旅行の當時を回顧致しますれば實に感慨無量ならざるを得ないのであります。而して今日は弊社の外幾多の同業者が出来ましたが何れも弊社の流れを汲むものでありますから苟も我國に於て鋼鐵のワイヤ及ワイヤロープの製作に従事するものは單に弊社のみに止まらず全國の同業者が此隠れたる背後の御指導者たる依先生に對し滿腔の敬意を表せねばならぬ永久に其功勞を忘れてはならぬので有ると私は固く主張するものであります。

尙ワイヤの原料たるワイヤロッドの製作も嘗て弊社が着手致しましたが型の如く失敗し其後神戸製鋼所が御始めになり淺田工學士の熱心なる御研究により今日は特種高級品の外は完全な製品が出来まして當に輸入を防遏するのみならず今日の如き非常時に當り自給自足の見込も付き安心を得るに至りました事は國家の爲め慶賀に堪へない次第で有りまして同君に對しても全國同業者に代り深く敬意を表する次第であります。

終にのぞみ日本鐵鋼協會の愈々御發展と皆様の益々御健康を御祈し申上て此光榮ある演壇を下る事に致します。

北辰電機製作所見學 同所に着したるもの150餘名下丸子驛より

